

調査結果の概要

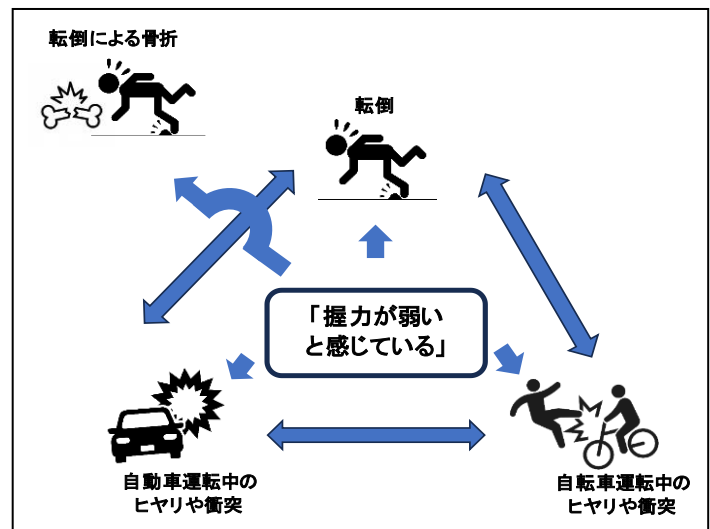
2023.12.18

【転倒や自転車そして自動車運転中のヒヤリや衝突事故を経験したヒトの傾向】

これまでの調査結果から、転倒や転倒による骨折、自転車そして自動車運転中のヒヤリや衝突事故といった「移動に伴う日常生活の事故」に関連する共通要因は「握力が弱いと感じている」でした。

そして「移動に伴う日常生活の事故」同士は関連性があり、それらをまとめると右の図のようなことが見えてきました。

握力は、上肢筋力のみならず下肢筋力や歩行機能、日常生活動作の障害との関連が示されており、握力が運動器の健康を知る身近なバロメータだとすれば「握力が弱いと感じている」は「移動に伴う日常生活の事故」予備軍であることの気づきなのかもしれません。



我々が解析した自動車運転者の身体機能からみた衝突事故を起こしたヒトの関連要因は、認知機能や感覚器機能そして運動器機能(握力、転倒、スポーツが困難)の自覚的な低下でした(https://www.jkri.or.jp/PDF/2022/sogo_86shinkai.pdf)。

「移動に伴う日常生活の事故」に関連する身体機能には握力以外にも共通する要因が潜在していると考えられます。

【コロナ禍における運動器の機能と健康感の変化】

調査結果では、家に閉じこもりがちになったコロナ禍が与えた運動器の機能への悪影響はわずかでしたが、自身の健康感是不健康に傾いていました(第1回緊急事態宣言の前後での比較)。日々の生活行動に制限があると、自身の健康感は低くなる傾向がうかがえました。

【メッセージ】

ヒトの運動器の健康と事故の調査結果から、運動器の健康は事故予防の観点からも大切であることがわかりました。運動器の健康を維持することが、よりよい Quality of life(QOL)の重要な要素であると考えています。